

# 介護職員自己評価表

2019年4月19日

事業所名	小規模多機能型居宅介護 小規模多機能前之浜
------	-----------------------

	正社員	非常勤社員
介護支援専門員	1人	人
社会福祉士	1人	
介護福祉士	5人	4人
実務者研修修了者	1人	2人
准看護師	1人	

※複数資格者含む

## ◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	備考
前回の課題に関する改善	26.0%	36.4%	33.8%	3.9%	

前回の改善計画	対象者の生活に合わせて多様な支援を提供することが必要であることから、生活歴・病歴・障害等を把握した適切な支援を心掛けている。一方、スタッフ間で捉え方が異なっていたことから、一貫性のある支援の提供に課題があった。捉え方に違いがみられた認知症ケアに対して、月に一回BS法による勉強会をおこなっている。これにより、住み慣れた地域で生活する為の支援の仕方について大きな違いがあることがみえてきた。なかでも、訪問看護・訪問リハビリ等の医療系在宅支援事業所と連携して認知症ケアをおこなう際に捉え方の違いが生じることが分かってきた。支援の質的確保を図るために事業所を超えた業務連携を模索している。
---------	---

前回の改善計画に対する取組み結果	勉強会やOJTを高い頻度でおこなっていることで、スタッフの抱える課題がみえてきた。特に、スタッフが思う適切な支援とご家族が希望する適切な支援は、隔たりがある場合があることを勉強会を通して学ぶ機会となった。また、不適切なケアが引き起こす支援の負の連鎖とBPSDがスタッフに与える影響について知る良機となった。なかでも認知症ケアを基礎から見直したことで生活歴を踏まえた支援の重要性が共有できた。一方、短時間関わる在宅支援事業所とは生活に関する把握が異なり、特に生活歴に関する考え方に違いが生じ問題化することがみえてきた。このことから、ケア会議などにより情報の共有を図っている。
------------------	--

## ◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目(偏差値)	よくできている(60以上)	なんとかできている(50~59)	あまりできていない(40~49)	ほとんどできていない(39以下)	合計
SECTION 1 対象者の接し方や態度について	14.3%	57.1%	14.3%	14.3%	100%
SECTION 2 仕事上の態度について	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%	100%
SECTION 3 食事について	14.3%	42.9%	42.9%	0.0%	100%
SECTION 4 移乗や移動について	28.6%	42.9%	28.6%	0.0%	100%
SECTION 5 排泄について	14.3%	42.9%	42.9%	0.0%	100%
SECTION 6 入浴について	14.3%	42.9%	28.6%	14.3%	100%
SECTION 7 着替えや整容について	42.9%	14.3%	42.9%	0.0%	100%
SECTION 8 服薬について	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	100%
SECTION 9 意思疎通について	42.9%	14.3%	42.9%	0.0%	100%
SECTION 10 行動障害について	42.9%	14.3%	42.9%	0.0%	100%
SECTION 11 普通の生活やアクティビティについて	14.3%	42.9%	42.9%	0.0%	100%

自己評価及び改善が必要な事項	OJTとBS法を用いた勉強会により、適すると思う支援を発信する機会が圧倒的に不足していたことがみえてきた。支援を通じて得た情報がスタッフ間で一致しない場合が多いことから、些細なことでも出し合える自由なケア会議を心掛け、他の在宅支援事業所を巻き込んで実施した。結果、BPSDに関する支援によっては、以降の支援を困難にしていることが確認できた。加えて、スタッフの介入を難しくしていることが想像できた。このことから、月に一回のスキルアップ勉強会で、それぞれのスタッフが学びたいことを挙げてもらい、基礎的なことに加えて、捉え方や考え方を話し合う場としている。現在は、支援に自信がもてないスタッフのメンタルとスキルのかさ上げを図っている段階である。あわせて、支援にPDCAが機能する為に、他の在宅支援事業所を巻き込んだ情報共有の場を設けている。
----------------	---

管理者 谷 哲秀

外部評価者	小規模多機能型居宅介護は、希望に応じて「通い」「訪問」「泊まり」を利用できる多様なサービスが特徴の地域密着型の事業所です。地域包括ケアの重要な役割を担っている事業所でもあります。対して、緊急介入を積極的に手掛けるなど、地域に密着した支援を手掛けていることは評価できます。一方、このことが介護職員の負担になっている可能性があります。仕事にはある程度自信がみられるものの、二次三次評価に比べ自己評価が大幅に低い介護職員が、経験に関わらず一応にみられました。OJTや勉強会、あるいは面談機会を大幅に増やしたことで自発性が向上したとするなど、概ね改善したとされていますが、未だ大きな変化がみられない職員も一部にみられました。原因のひとつに、連携の難しさを挙げていました。支援の提供で得た情報が職員間や他事業所で異なることが背景にありそうです。対して、些細なことを話し合う自由なケア会議の開催を他事業所の参加を促して実施することは評価できます。自信に繋がる指導の必要性は十分理解されています。
-------	---

〒891-0141 鹿児島市谷山中央6丁目  
 特定非営利活動法人かごしま福祉開発研究所  
 社会福祉学博士 岩崎 房子

